教育目標　すくすく　ぐんぐん　にこにこ

令和４年１０月３１日
第５３５号
北区立じゅうじょうなかはら幼稚園

園長　髙沢　ゆみか

布を織るように

１０月２２日に王子第三小学校の校庭をお借りして、運動会を行いました。３年ぶりに両学年合同で実施できた運動会。当日は全園児がそろって、これまで取り組んできたことをご家族や地域の皆様にご覧いただくことができました。運動会の開催にあたり、ご協力くださいましたすべての皆様に心より感謝申し上げます。

運動会で、年長さくら組は旗やパラバルーンを使った表現やリレーなどに取り組みました。子どもたちが、自分たちで互いに声を掛け合って、気持ちをそろえたり力を合わせたりする姿や、真剣に一人一人が力を出し切る姿に胸が熱くなりました。司会などの係活動での立派な姿からは、役割を果たす誇らしさや自信が感じられました。また、年少ちゅうりっぷ組は、かけっこでは元気に、うれしそうに、あるいは恥ずかしそうに、一人一人がその子らしく競技に参加しました。そして、海の生き物になって踊った表現では、海のイメージを担任や友達と一緒に楽しみながら、のびのびと体を動かしていました。園児一人一人の「その子らしさ」が輝く運動会だったと思います。

夏休みが明けて間もない頃、ちゅうりっぷ組では、担任が子どもたちの遊びのイメージに応じて、布などを使って保育室を海の中にいるかのように構成し、海のイメージでのごっこ遊びなどをたくさん楽しみながら、運動会での表現(ダンス)に自然につなげていきました。表現の際の小道具は、子どもたちがうれしくなって、思わず自分から動かしたくなるようなものを、と担任が考えて用意したものです。また、さくら組は、やはり夏休み明けに学級のみんなでパラバルーンで遊んだときに、「これを運動会でやろうよ」と言い出した子がおり、「前のさくら組さんがやっていたもんね」「パプリカ(の曲)でやっていたね」「また運動会がやりたい！」と、自分たちで話を進めていきました。担任はそのとき、意図的にまだ運動会の予定を子どもたちに知らせていませんでした。子どもたちの気持ちが動き、言葉が出てくることを待っていたのです。もちろん、運動会の予定はあらかじめ決まっていますが、幼稚園では、子どもたちが「運動会がしたい」「(種目は) 何をやろうか？」「どんな準備が必要かな」と、主体的に自分たちで進めていかれるよう、経験の積み重ねを大切にしています。そして教師は、子どもたちが「自分たちで進めている」と感じられるよう配慮しながら援助をしています。今年度のさくら組の姿は、昨年度の運動会での年長組の姿を見た経験、毎月の誕生会でこつこつと重ねてきた司会の経験、日々の遊びや生活を通して築いた互いをよく知っている友達関係などが一本一本の細い糸となり、布を織るように、いくつもの経験の積み重ねがさらにつながって見られた姿です。

ちゅうりっぷ組にとっては、今回の運動会を通して味わった満足感や年長組への憧れの気持ちが来年度の運動会にもつながっていきます。さくら組は充実感、達成感、などが次の活動への意欲や自信となっていくことでしょう。子どもたちが織りなすこれからの生活がますます楽しみです。

今月の指導のねらい

＜ちゅうりっぷ組＞

- 自分の思いを、動きや言葉で表したり、友達に伝えたりする楽しさを感じる。
- みんなで一緒に活動することを楽しみにし、その中で、自分の動きを伸び伸びと表す。

＜さくら組＞

- 友達と思いや考えを出し合いながら、力を合わせて取り組んだり、遊びや生活を進めたりする楽しさを味わう。